

P 4 「資源の循環物語」

ごみの排出量が増えると費用負担も増える従量制を取り入れ、新たなごみの分別を開始した私たちは、ごみの減量化に向けて次なる作戦に打って出ました。

ごみの発生を抑制する第一歩として、「レジ袋削減・マイバッグ推進運動」が展開されていきます。やがてレジ袋を有料化するお店が増え、自前の買い物袋を持ち歩く人々の姿を目にするようになります。過剰包装など多くのごみが出る商品は選ばない賢い消費者が増え、使い捨てよりも長く使えるものを好む生活様式が浸透していきます。~~金融機関は、市民が排出するごみの量が減ると預金金利が高くなる環境預金を始め、ごみ減量の努力が報われる社会が形成されていきます。消費者側の環境意識の向上とともに、販売者の立場からも環境に配慮した形態の販売方法へ切り換えるなど、相互の取組が調和し、社会全体においてごみ減量化への意識が共有されつつあります。~~

今や人気を博するフリーマーケットやリサイクルショップなど多様な市場を通じて中古品が活用されています。こだわりと愛着をもってなるべく修理し、暮らしの逸品として物を大切に作る文化が根づいてきました。

物語は、再生利用（リサイクル）によって大きく展開します。~~環境産業の市場規模が拡大するなかで、滝川でもリサイクル産業が徐々に増えています。への取組が広がりを見せ、廃食油が燃料に生まれ変わり、生ごみが資源として循環利用されていきます。稲わらなどの未利用資源から紙を作り、さらには地中で微生物に分解される生分解性プラスチックの製造まで、地域資源を活かした環境産業が広がりを見せ、雇用の拡大にもつながっています。き、人々が排出する日常のごみから、資源として活用できるものはできるだけリサイクルされるような仕組みづくりが進められていきます。また、環境産業の市場規模が拡大するなかで、行政や民間事業者の間でもリサイクルをはじめとした循環型社会の形成に向けた事業への関心が高まりを見せ、情報の交換や収集なども活発に行われ、環境と経済の調和が図られる社会を目指しています。~~

そして2015年、ごみの排出量は減少し、大人から子供まで資源を大切に利用する「環のまち」滝川市民が街を行き交っています。